義經記

一

へ 13
3309
1

へ13
3393
1

手ごの故強入全八冊

義經記

大阪書林 前川善兵衛藏版

義經記卷第一目錄

一 しらかわ郎おちの事
二 ひたちこし郎しんとうの事
三 牛若こう海へ入の事
四 きうりん坊の事
五 牛わかこう海での事
六 若沢が奥へ掛かくるの事
七 きつねなりとうまを出の事

大正十年八月発行
本大學出版部

義経記巻第一

一　源氏郎等為乃事

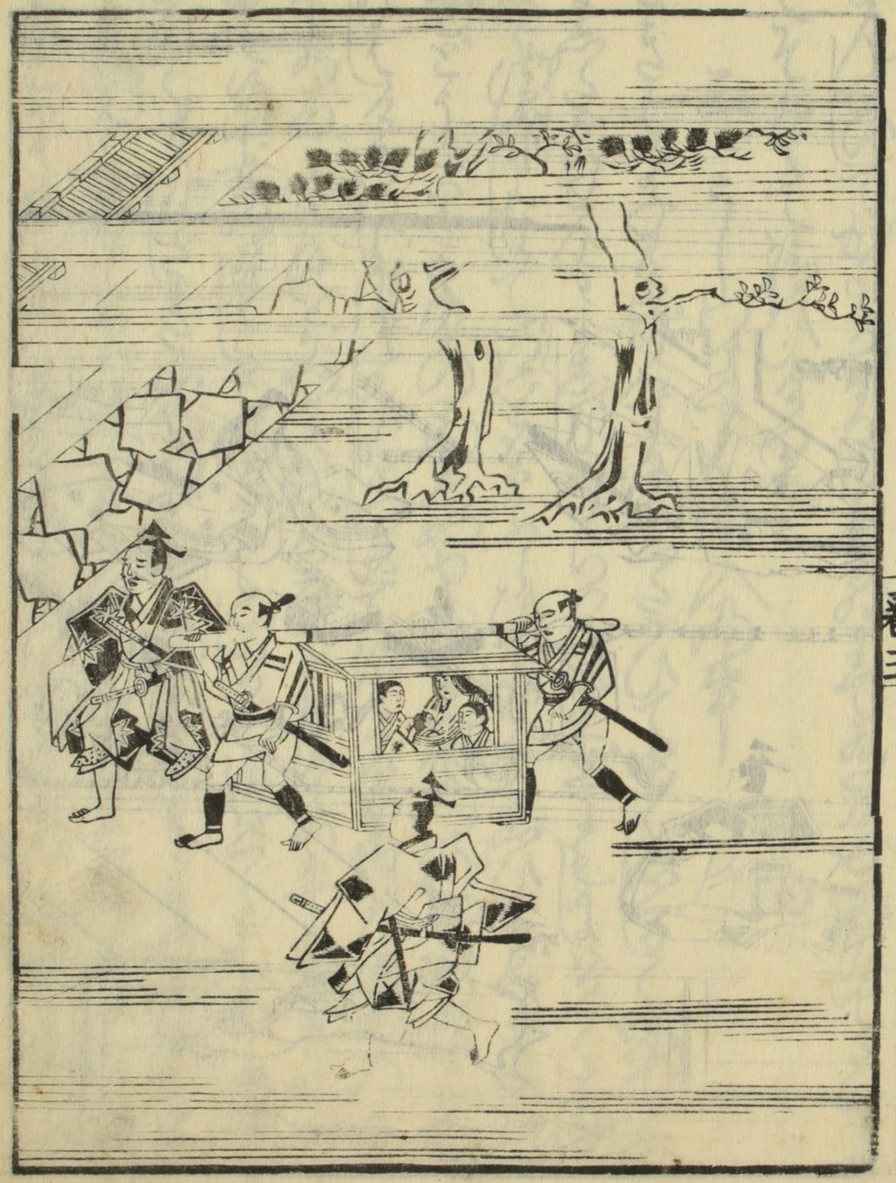
[illegible]郎等ひとりもなかりけるに、[illegible]国村とひとりまうけたりけるを、[illegible]
[illegible]ぬるとうたいへ名をとりて、[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぐまして、たれ四うぐつこの
のはつこうこうあれのこ、ことと
わるとおなれ、ぜんぜんこと
こうもこうぐこうこうぐ母ぜこ
ぜ第こうるとこれ母ぐ拷問
とうこ母人命とこうとこ
ばこのえとたもんこすま
とぐいうぐこうこうこうこ
ぜ行もなうぐこうわうとな
ぜひぐと三人のとひこ
ぜ第ひうぜこれば悪七
よ行ぐこもじて
人ぜひて四こ

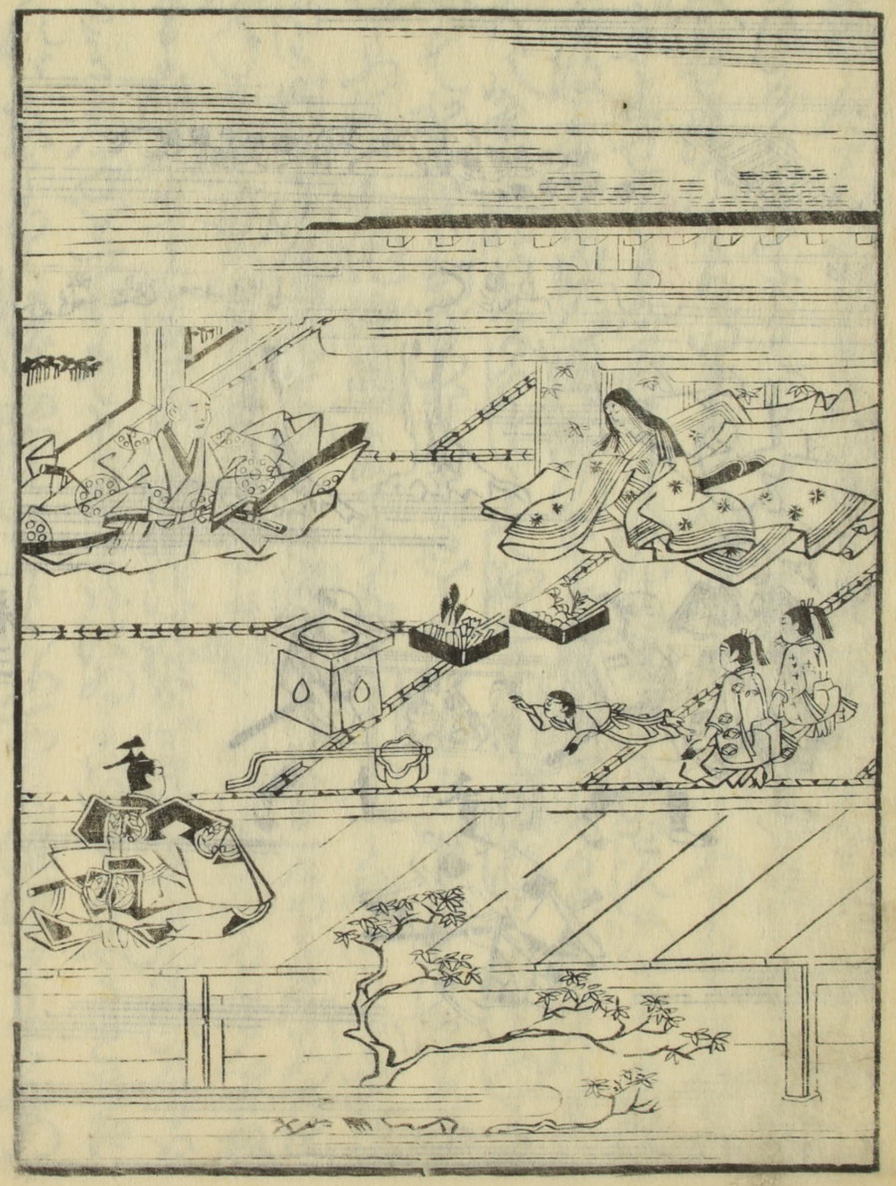
漢

楊貴妃

なうぐ女ぐと千人ぜこれて
ゆこうぜ人ぜぐぜ千人の
人なるぐ海こ人ぜひ
こうぐ海國ぜこれ
これぜものこ人ぜ
人のこ人ぜぐぜ
行ぐぜ第こうこ
たぐぐこ
とぐいこれこ
ぐこれば鼻女ぜ
人世人ぜ



學問



三　うつくしき海人の事

故頭

歳

文

燈

消

性

鞍馬

武男

律師

類

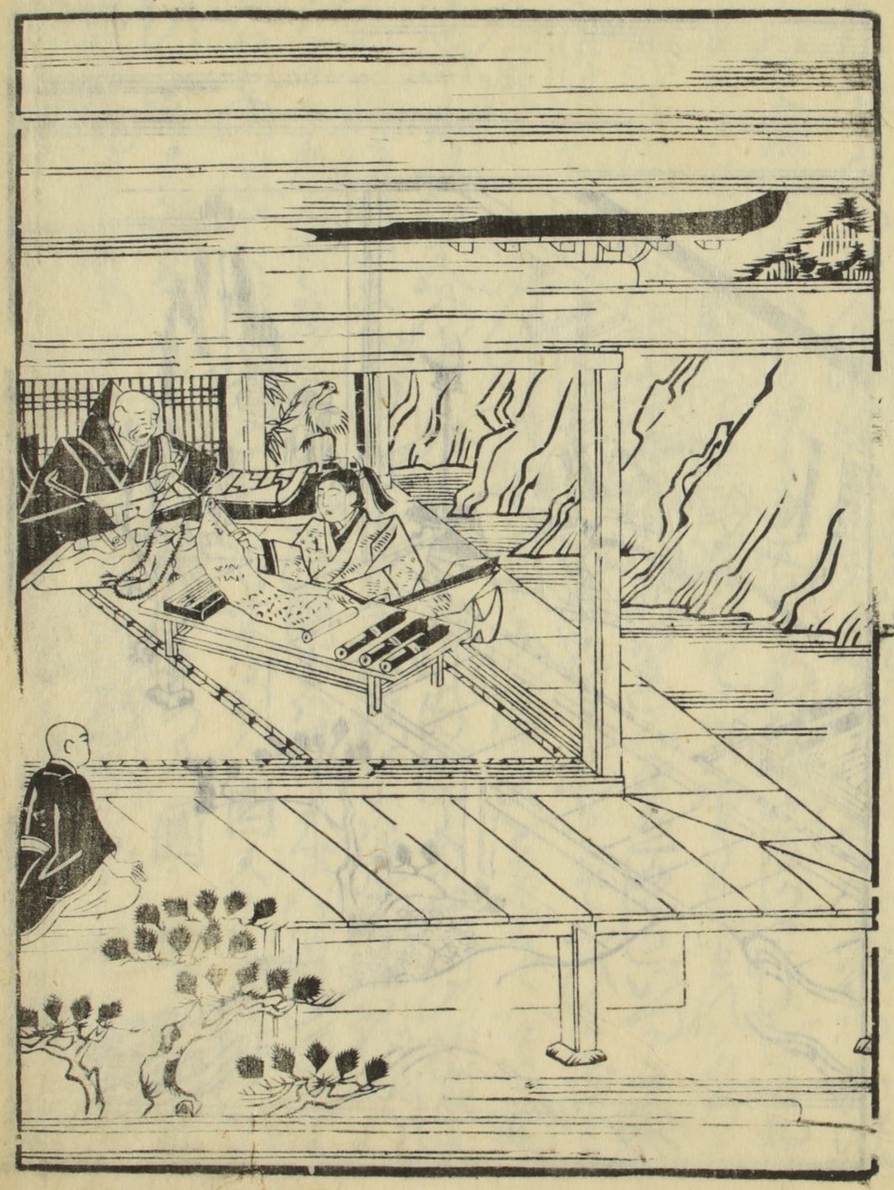
年

子

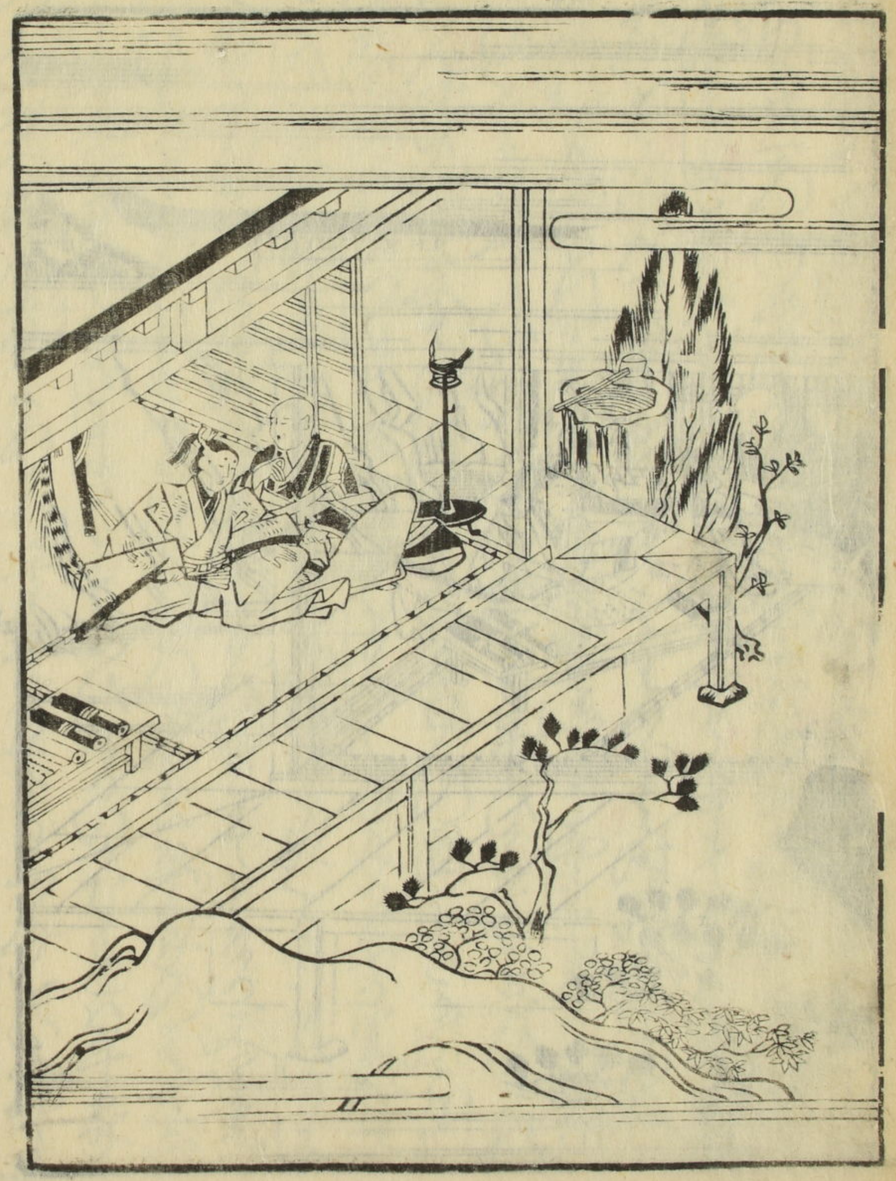
頭

長田

田



てゝ九そ男になりて、かまくらぐれよりこれを
正
ぶらりさ、ぶらりこゝにひとりゝ
爲義
源元よりためよりうたはまのひぬ
義朝
年治よりはじめ
埋
ひて
送
子孫
の名をとゞめんで墨書
俗
行
ぼされものるれば出家して法
鎮西
だひとりとゝひわやうの
太宰府
ぶらんぶらりゝ
學問
なぶのわらべと云
とゝひ出て都よりとて
て船ゝをうば法名とぶ
乃ひとりとゝとゝ
ゆしりとんてめざ
のたゝ



よりかつとあがらん源氏は保元平治の合戦
をへて初めこれをこそうまれわざわひ幼刀
らまてしてこれまで部をきしかりけれ
んもかうしたわんずる源氏乃わかまこと
をたれて世をとるべきなりこと
めの源こそゆびをれて四国この源氏とそかそへる
伊四国は新宮乃十郎よりこれ
こそ摂津四国は多田蔵人ゆ
つこそかうしたこそ多田蔵人
兎張
いつとの四国はかでうしんや
豆
しのぶ三郎乃ぶ四国はかでうしんや
先生
らびぜんかしよ乃ぶ四国は上野ぶ
ゆわうけ乃ぶ四国とへだてこそ
陽

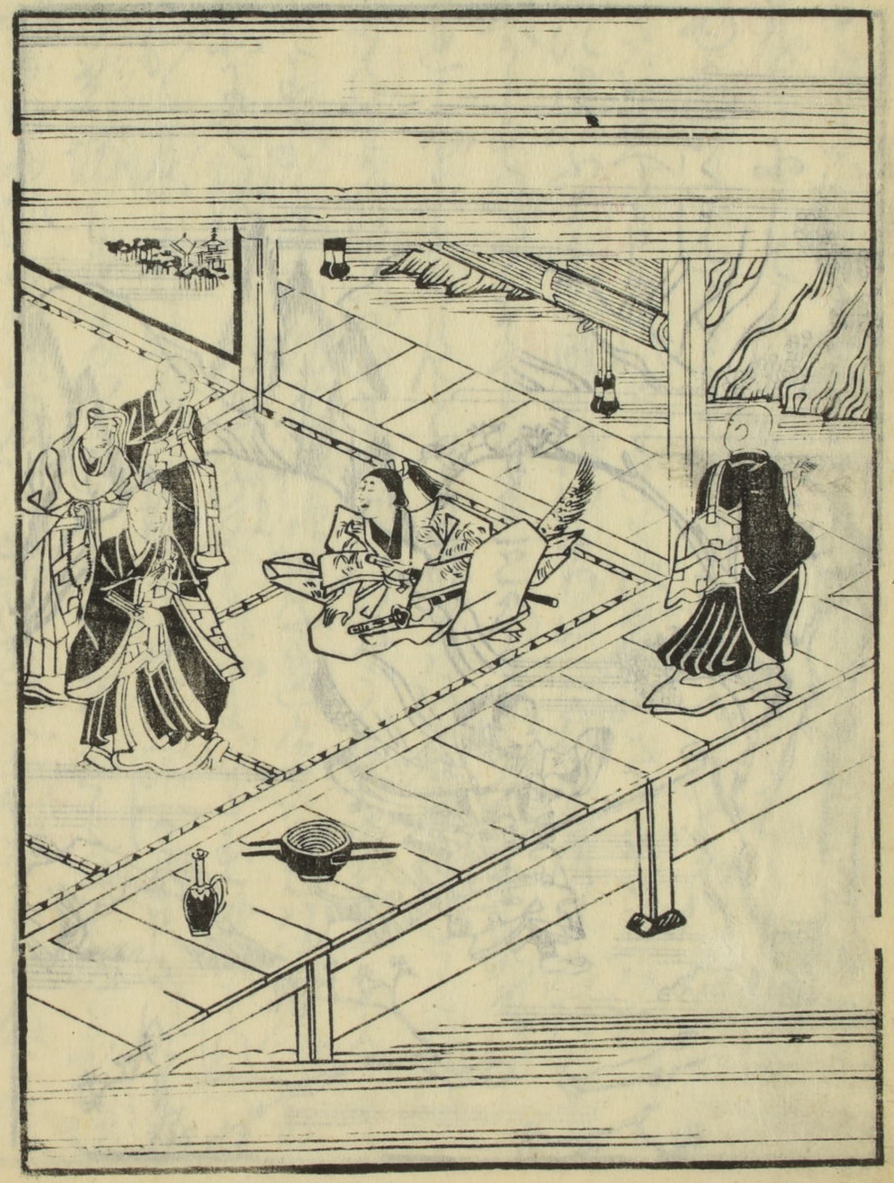
迎させまいらせまいらせそうろうあの事のはこの半分あ
ゝそしてはすの葉と書きそうろうんがなりふく敷わいま
こゝ書簡ゝ浮世のうきうきとして浮世のうきうきとして
ゆくあとの世とのみおもひて世ゝとこゝさまやとひとへばかり
そこうつくしきのはなをうゑうゑうゑ川岡のうえ今はなごうう
なりてこゝまへこゝてそうなりとろ川岡のうえ今はなごうう
行よりあきのひとはねこうとはとはんれを
もこゝさこゝいこゝてこう光陽のうえ岡こうこう
悪しんこゝこゝこゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とそこにしたがひ、まうしけるは、事とはあひ、ねがはくは、
もろもろのかたきをたをしたまへとぞ、
殺武容顔
ぶ
ぶ
ぶ
武勇
剣
穴
遠那王
更



六　吉原が奥が掛塩乃事

かくて年もくれぬ。十六すぢ成の太夫乃ほか
ふまりてあるまさてれたるうるおおそ
者ゆこそ者と吉原のびるこそ
多門　謀反　福　長
商　念誦
多門ゆまりて極楽寺て
うんなまりておくうつくしうつくしうはちぐ
んまるうるべくんてまるぐ
おがくうんうれ慢一人れいまゆ
馬乃ゆ道代の者ゆ者ゆ乃おかゆ
頭
らゆ

もなれば、たゞの大二位清盛、國の司かけて六十六ヶ國と、まつぐ
うくるこのかぎりは源氏の出生なれば、平氏の
ゐる所に京とて二人の子をもち、國のつぎ〳〵あるをもて、
ひでひらとは、ちゝ盛に、源氏と名をとゞめさせ
なるもうへ〳〵ぬとゝのゝくそあらやこゝろのひゐ抱とゝ云
なりゝどいとゝまつ也ゝ也ゝ也てひでひらのゝ見参へ入り出
抱なそ〳〵ぬやとゝ云ひ出あの小男とゝ云ゝ者ゝ訪ゝ
ゝゝゝ乃男なるすてゝおゝゝゝゝゝゝゝ前ゆゝ
ゝ金とゝゝゝゝひてゝ奥ゝ
よゝゝゝゝゝゝゝ

とそれて、あまたよりあつまりてぐそうもんとかもあるわざ
むのうち死たるの姫はじめ
時に小波通七ケ国の内のうち
出たるべきうちのうちにて
て、先天命とそむくにそ
うたさとめへとかさ
十二万騎の軍兵をそ
くわへかするの内
らんとさとて下野のおいのうへ
ぜてうりやの川の城
あてくおうりの
ひむうひて源氏とまり
向の内のとさとおの

追討

追

貞仔

うとひむひそ自の軍に
たるの郡のうちの
するうこ源のうちに
ゐるそうひうて出て
やひひうん軍兵京へ
ゆとかされ出ゆ
こ今さして出んと
ゆうて十三ようなる子
何こ云でこれ
時小はれかして
に合戦の大ゐうする
義国のうとあうこ
て、八幡大神に願

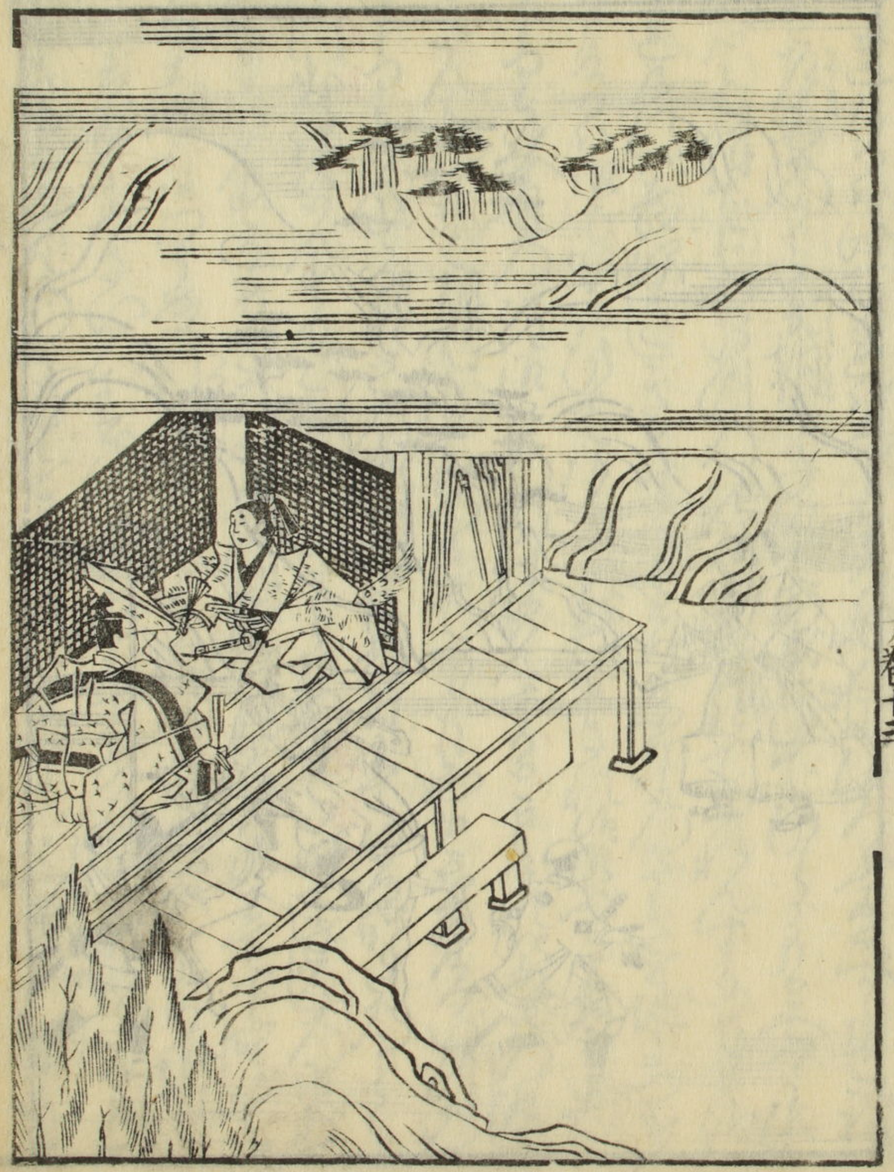
合戦

例

帝

原太　初衣　東西　康

源ひとこそ、ちんぜいのうぶさめとりたるゝ、ら、ぶの中ゑ、ぶを
ちんぜいのうぶ、ぶ、ぶ、



ぶそうして坂東に打出、倫旨ハ源氏よりいざさ二国なり、
野方乃国なり、ほとんどわかとして十二方ごとるよりて、廿方
ごとにかけて十方ごとに分ちたるもの、十方
ごとにかけ、ものつかへ、残分ハ越後国よりおくれうの
ほかるべし、おくよりの出いとりて、越中、能登、加賀、越
おくりぐんぶとなびきて十
方ごとに分てあるちりのゆきと
とき紙て、遠近ひかりのまして海ハ乃二
十方ごとを結えてあり坂乃国とおこして記よきめる
十方ごとに天下乃山ハ
さらに平家ハ都よりくんぶ
ちの世ふとめかで称とび記よりくんぶ事、分よれてハ
ものの乃ふそくらあべごとにひとのかもの十六乃ものとふハおそ
ふかしごとに笑ごろけ男わかしもごもとにあ

いてぎ同様相撲をとりけるに、
しかるに、ある年、ある人、
びんぼうにて、
安永二年二月二日、
[illegible]
[illegible]
[illegible]

義経記巻第一終